



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 265

2019/02/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. かめむし

02. 冬散歩の楽しみ



今月の一枚



Photo

「街路樹のイチョウ並木」

表紙写真・文／鬼丸和幸

美幌町公園通りのイチョウ並木。冬…葉は落ち、木の幹だけが雪の上に並んでいます。

元々は街路樹として、修景用あるいは環境保全用として植えられたものかもしれませんが、落葉は溜まり、電線の支障になる恐れもある等の理由で、枝が切られています。生きものとして見られていたイチョウが、いつの間にか“物”として扱われてしまっているような…丸裸の姿を見ると、何ともやるせない気持ちにさせられました。

Event. 今月のイベント

企画展「冬季作品展」 2月2日(土)～3月3日(日)

ロビー展「ひなまつりとひな人形」 2月6日(水)～3月3日(日)

プチ工房「ストローで作るヒンメリ」 2月13日(水), 15日(金)

ロビー展関連講座「和紙で作る折びなかがり」 2月23日(土)

Information. 参加者募集

プチ工房 「ストローで作るヒンメリ」

● 2/13(水), 15(金) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(200円) ●八重柏 誠(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

ロビー展関連講座 「和紙で作る折びなかがり」

● 2/23(土) 10:00 - 14:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料代(500円), 昼食, お手元が見えにくい方は眼鏡 ●八重柏 誠(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(2/1 - 2/21)。対象は小学3年生から一般, 小学生は保護者の同伴が必要, 定員10名で締切。

今月の休館日

● ●
4日, 12日
18日, 25日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN

グリーンコラム



かめむし

写真・文／鬼丸和幸



3月24日から、美術をテーマにした企画展「絵を描く心〜岸本ひろみ裕躬作品より」がスタートします。現在、その準備に入っているところですが、展示予定作品の1つに、「かめむし」とタイトルがつけられた油彩作品があります。昆虫である「かめむし」の姿が、赤色絵具でダイナミックに描かれた作品で、私が好きな作品の1つでもあります。

カメムシは、カメムシ科に属する昆虫の総称です。一般には、体の形は五角形に近い扁平形で、中にはアリのような細長い形をしたものもあります。

「カメムシ」と言うと、真っ先に連想するのが…「クサイにおいを出す!」。そのため、日本各地では「ヘコキムシ」「クサムシ」…などと古くから呼ばれている所もあり、英名でも“stink bug”（クサイ虫）と呼ばれたりしています。

カメムシにしてみれば、「クサイにおいを出す」行為は、「クサくて美味しくない」と敵に思わせ身を守るための手段であり、生きるための武器となります。においの成分は、自分自身にも有害なため、自分の体の表面を、がっちり厚いセメント層で覆い、有害成分が体に浸み込まないように工夫しているものもあります。また、一部の種類(サシガメ類)には、不用意に触り刺されてしまうと、ハチに刺された時以上に、ひどい痛みを伴うものもあります。

どちらかと言うと敬遠されがちな「カメムシ」ですが、生き抜くために敵から身を守る工夫を、進化の末に獲得してきました。

そんな姿に、画家である岸本氏は、生きるたくましさ感じ、力強い姿のカメムシを描いたのかもしれない。

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

冬散歩の 楽しみ

写真・文／城坂結実



2月。オホーツク海沿岸には流水が接岸し、冷え込みが特に厳しくなる季節です。

寒さにくじけそうになる気持ちを奮い立たせ、えいやっ！と森へ出かけてみると、この季節にしか味わえない楽しみを見つけることができます。

ポピュラーなものでは、動物の足跡探し。美幌博物館の裏の森では、キタキツネやエゾリス、エゾユキウサギ、エゾクロテンの足跡を見つけることができます。足跡の軌跡を見ながら動物が歩いている様子を思い描くと、静かな冬の森の散歩も、とたんににぎやかなものへと変化します。

写真は、樹木の幹に巻きつく植物の”つる”。珍しくもない、よくある光景です。夏の間は、生い茂る木々の葉に隠れてしまうので、目にすることすらありません。しかし、冬の森では、なんとも新鮮なものとして目に飛び込

んできます。こんなにきれいな螺旋^{らせん}を生み出す自然の偉大さを、思い知らされます。

また、ありもしないことを想像しながら歩くのも一興です。雪が積もったサルノコシカケの仲間は、ユキノコシカケに改名してはどうだろう…羊の顔にそっくりなオニグルミの冬芽は、もしかして、こっそり鳴いていたりして…なんてことを思うたびに、可笑しくなります。

冬の森は白いキャンバス。きっと、楽しいもの、心に残るものは人それぞれ違うのでしょうか。想像の翼を羽ばたかせながら真っ白な森を歩いたとき、あなたの目には何がどのように映るのでしょうか？みなさんの楽しみ方を、いつかお聞かせください。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



.....
バケツに水を入れて一晩置いて凍らせると、素敵なキャンドル入れができあがります。先月、初めてこのアイスクャンドル作りに挑戦しました。夜の気温によって仕上がりが全然違い、簡単なようで難しいものでした。(城坂)